

プラットフォーム事業者における利用者情報の取扱いについて

社名	
1. 利用者情報の取扱いの状況	
1-1.	利用者情報取得の場面・取得する情報の内容 Google サービスの利用時に Google が収集する情報 Google は、すべてのユーザーによりよいサービスを提供するために情報を収集します。ユーザーの使用言語といった基本的な事項を理解することや、お客様にとって最も役に立つ広告はどの広告か、おすすめの YouTube 動画はどれか、などの複雑な事項を推定することが含まれます。Google がどの情報を収集するか、その情報がどのように使用されるかは、お客様がどのように Google のサービスを利用されるか、またプライバシー設定をどのように管理するかによって変わります。Google はユーザーが作成し、提供する情報（例えば Google アカウント）、Google のサービスにアクセスするために利用するアプリやブラウザ及びデバイスに関する情報を収集し、おすすめの YouTube 動画を提示するなどユーザーにより役立つ情報を提供するために活用しています。また、Google サービス利用時の位置情報も収集しますが、ユーザーは Google アカウントにアクセスして、Google に共有する情報や位置情報のような情報をいつ削除するかを確認、管理することができます。Google は、包括的な プライバシーポリシー により、ユーザーがどのように自らのデータを管理できるのかを分かりやすく示す努力を行っています。

1-2	取得情報の加工・分析・利用状況	Google は、Google のサービスを通してお預かりした情報を以下の目的に使用します。 サービスの提供 ユーザーの情報を、サービスを提供するために使用します。たとえば、検索キーワードを処理して結果を表示するため、ユーザーの連絡先から共有相手の候補を表示してコンテンツを共有しやすくするためなどに使用します。 サービスの維持、向上 ユーザーの情報を、サービスを意図したとおりに稼働させるために使用します。たとえば、障害事例を追跡するため、あるいは報告をいただいた問題の解決に取り組むためなどに使用します。また、ユーザーの情報を、Google のサービスを向上させるために使用します。たとえば、特にスペルミスの多い検索キーワードを把握し、各種サービスでのスペルチェック機能の向上に役立てます。 新しいサービスの開発 既存のサービスで収集した情報を、新しいサービスの開発に役立てます。たとえば、Picasa（Google の最初の写真アプリ）でユーザーがどのように写真を整理するかを把握したことが、Google フォトの設計とサービス開始に役立ちました。 コンテンツや広告など、カスタマイズしたサービス提供 Google は、Google のサービスを個々のユーザーに合わせてカスタマイズするために、収集した情報を使用します。たとえば、おすすめ情報を表示する、カスタマイズしたコンテンツを表示する、カスタマイズした検索結果を表示するなどの目的で使用します。 パフォーマンス測定 Google は、Google のサービスがどのように利用されているのかを把握するために、分析や測定のためのデータを使用します。たとえば、Google のサイト
-----	-------------------------------	--

		へのユーザーのアクセスに関するデータを分析して、サービス デザインの最適化などに役立てます。また、広告主が広告キャンペーンの効果を把握できるよう支援するために、ユーザーが操作した広告に関するデータを使用します。 ユーザーの皆さまとのコミュニケーション Google は、収集したユーザーのメールアドレスなどの情報を、直接ユーザーにご連絡を差し上げるために使用します。 Google、Google のユーザー、一般の人々の保護 Google は、収集した情報を Google のサービスの安全性と信頼性を向上させる取り組みに使用します。こうした取り組みには、Google、Google のユーザー、もしくは一般の人々に害を及ぼすおそれのある不正行為、不正使用、セキュリティ リスク、または技術的な問題の検知、防止、対応などがあります。
--	--	---

1-3.	利用者情報の第三者提供の状況	ユーザーは、Google のサービスを利用されるときに、下記の内容が明記されたプライバシーポリシーに同意の上で、利用を開始されます。下記プライバシーポリシー該当箇所をご参照ください。 Google は、以下の場合を除いて、ユーザーの個人情報を Google 以外の企業、組織、個人と共有することはありません。 ユーザーの同意を得た場合 Google は、ユーザーの同意を得た場合に、Google 以外の者と個人情報を共有します。機密性の高い個人情報を共有する場合は、ユーザーに明示的な同意を求めます。 外部処理の場合 Google は、Google の関連会社およびその他の信頼できる企業または個人に対し、個人情報を Google のために処理させる目的で当該個人情報を提供します。その場合、当該関連会社、企業、または個人は、Google の指示に基づき Google のプライバシー ポリシーならびにその他の適切な機密保持およびセキュリティの方策に従って当該処理を行います。たとえば、Google ではカスタマー サポートの提供をサービス プロバイダーに委託することがあります。 法律上の理由の場合 Google は、個人情報へのアクセス、使用、保存、または開示が以下の理由で合理的に必要なだと誠実に判断した場合、その情報を Google 以外の者と共有します。 ・適用される法律、規制、法的手続きまたは強制力のある政府機関の要請に応じるため。政府から受けた要請の数と種類についての情報は、Google の透明性レポートで開示しています。
------	----------------	---

		・違反の可能性の調査など、適用される利用規約の遵守徹底を図るため。 ・不正行為、セキュリティや技術上の問題について検知、防止またはその他の対処を行うため。 ・法律上の義務に応じて、または法律上認められる範囲内で、Google、Google ユーザー、または一般の人々の権利、財産、または安全に害が及ぶことを防ぐため。 Google は、個人を特定できない情報を公開する、または Google のパートナー（サイト運営者、広告主、デベロッパー、権利者など）と共有することがあります。たとえば、Google サービスの一般的な利用傾向がわかる情報を公開します。また、特定のパートナーに、広告および測定のためにパートナー自身の Cookie や類似の技術を使用してユーザーのブラウザまたはデバイスから情報を収集することを許可しています。 Google が合併、買収、または資産譲渡の対象となった場合、Google は引き続きユーザーの個人情報の機密性が保持されるよう取り計らい、個人情報が譲渡される前、または別のプライバシーポリシーの適用を受けるようになる前に、対象のユーザーに通知します。
1-4.	広告ビジネスモデルへの利用者情報の活用状況	Google はユーザーから共有されたデータをもとに Google のサービスを提供、維持、改善し、新しいサービスを開発しています。ユーザーご自身によるプライバシー管理によって、パーソナライズされたコンテンツ、広告を含めたサービスの提供に利用することができるようになります。Google アカウントにサインインし、アクティビティ管理のページから、ウェブとアプリのアクティビティをオンにすると、Google はユーザーに対しパーソナライズされた広告をユーザーの関心に基づき示すことがあります。例えば、「マウンテンバイク」と検索すると、ユーザーは Google から提供された広告を表示するサイトを見るとスポーツ用品の広告を目にするかもしれません。Google がユーザーに広告を出すために利用する情報は、広告設定からユーザーご自身で管理すること

		ができます。また、ユーザーは広告主からの情報に基づいてパーソナライズ広告を目にすることがあるかもしれません。例えば、広告主のサイトで商品を購入したのであれば、広告主はサイトを訪問した情報を利用し広告を表示することができます。 データが広告においてどのように収集、利用されるのかについては下記のリンクよりご確認頂けます。 プライバシーポリシー パーソナライズド広告 広告が表示される理由
1-5	利用者のプロファイリング・セグメント化状況	Google は収集した情報を、パーソナライズド広告に同意するユーザーにおいて、おすすめの提供、コンテンツのパーソナライズ化、検索結果のカスタマイズを含めた Google のユーザーのためのサービスをカスタマイズするために利用します。セキュリティ診断のツールでは、利用する Google の製品ごとにセキュリティ設定のヒントを提供しています。 ユーザーの設定によって、ユーザーは関心に基づいたパーソナライズド広告を目にすることがあります。例えば、「マウンテンバイク」と検索すると、ユーザーは Google から提供された広告を示すサイトを見るとスポーツ用品の広告を目にするかもしれません。ユーザーは広告設定より管理することができます。広告設定のページにおいて、ユーザーには以下の点が通知されています。「広告は、Google アカウントに追加された個人情報、Google のサービスを利用している広告主から提供されるデータ、Google が推定した興味 / 関心に基づいて表示されます。」 ユーザーは、人種、宗教、性的指向、健康のようなセンシティブな情報に基

		づいてパーソナライズド広告が示されることはありません。また、名前やメールアドレスのようなユーザーを個人的に特定する情報をユーザーご本人の求めがない限り広告主に共有しません。 詳細については、下記よりご確認ください。 プライバシーポリシー パーソナライズド広告
2. 利用規約・プライバシーポリシー		
プライバシーポリシー等		
2-1.	利用者情報の取扱いに係るプライバシーポリシーの内容	Google は、大勢の人々が日常的に新しい方法で世界について知り、世界の人々とコミュニケーションをとることを支援するさまざまなサービスを開発しています。Google のプライバシー ポリシーについて、できるだけわかりやすくお伝えできるよう、具体例、説明動画、主な用語の定義を提示しております。

2-2.	サービス利用開始前の利用者への示し方、通知/同意取得の方法（導線及び掲載場所）	・ユーザーが Google アカウントを作成する際、プライバシーポリシーへのリンクとプライバシーに関する選択肢、及びアカウント作成の流れ自体に関する明確な説明が示されます。ユーザーはアカウント作成後いつでもプライバシーポリシーにアクセスしたり、設定を変更することができます。 ・アカウント設定の流れには、プライバシーポリシーの概要も含まれます。したがって、新たなアカウントを作成するすべてのユーザーがプライバシーポリシーの概要を閲覧することとなります。この方法は、プライバシー監視機関（ICO）を含むデータ保護当局との協議を経て採用されました。 ・アカウント作成の流れの最後に、ユーザーは、利用規約への同意を示すボックスとは別の、「上述の【すなわち、ユーザーが選択した設定による】ユーザー情報の処理」に対する同意を示すチェックボックスにチェックすることを求められ、アカウント作成プロセス終了前にさらにプライバシーポリシーの説明が示されます。 ・アカウント作成時には、ユーザーにいくつかのプライバシー設定が提示され、特定の処理について説明されるとともに、パーソナライズド広告への同意など、ユーザーが選択をおこなう機会が提供されます。
2-3.	変更の際しての通知/同意取得の方法	Google では、プライバシーポリシーに記載しているとおり、ユーザーへの変更通知を状況に応じて様々な方法で行っています。Google は、最終更新日時を常に表示し、旧バージョンもユーザーが参照できるようにアーカイブに保存しています。一部のサービスについてはメールでお知らせするなど、重要

		な変更についてはより明確な方法で告知しています。 Google はプライバシーポリシーを遵守することを重く捉え、ユーザーによる明示的な同意なくポリシーに基づくユーザーの権利を縮小することはありません。
2-4.	利用開始後（最初の同意・通知後）における、定期的な通知等の工夫	Google は、 Google アカウントに保存される情報を管理し、プライバシーとセキュリティの設定を見直し、かつ、自身の意向に合わせて調整することを、ユーザーに推奨しています。アカウントの作成の最後の段階において、ユーザーは、アカウントのカスタム設定に関する通知を受け取りたいかどうかに関して、チェックボックスで選択することができます。また、 Google は、ヘルプページや、サイバーセキュリティ月間やセーフアーインターネットデー等に合わせた取り組みなどを通じて、ユーザーへの周知を行っています。
透明性確保のための工夫		
2-5.	利用者情報の取扱いを分かりやすくするための考え方、工夫や対処（利用者への働きかけや情報提供、ユーザーテストの実施等）	・ユーザーの理解を高めるため、Google のプライバシー ポリシーでは、画像やアニメーション動画及び主要なコンセプトをわかりやすくハイライトした説明を行っています。 ・Google は、プライバシーとセキュリティの設定を確認及び調整し、自動削除などのツールを利用することなど、ユーザーご自身が Google アカウントに保存されている情報を管理されることを推奨しています。 ・Google は、ユーザーに対してヘルプページやセーフアーインターネットデ

		一などに合わせた取り組みを通じて、これらをお伝えしています。
2-6.	同意取得/通知に際しての、利用規約やプライバシーポリシーを理解しやすくするための工夫（階層的アプローチ、ダッシュボード、ジャストインタイム、アイコン、モバイル及びスマートデバイスの特徴の利用等）	Google は、有識者や規制当局に対し Google の説明責任を果たすために、Google のデータ慣行を包括的かつ正確に記載する必要性とのバランスを取りながら、ユーザーの関心を最大限に高めるプライバシーポリシーの作成に多大な資源を投入してきました。また、Google は、プライバシーポリシーの範囲外でも、ユーザーが自分の選択がプライバシーに与える影響を理解できるように、Google 製品上で直接設定する機能を追加することで、プライバシーに関するユーザーの関心を高める方法を模索しています。 ユーザーのエンゲージメントに影響を与える Google のプライバシーポリシーの項目のうち、2018 年のプライバシーポリシーの最新版を設計する際に Google が考慮した要素は以下の通りです。 ・ナビゲーションのしやすさ：Google は、明確な見出し、簡単なナビゲーション、オーバーレイなど、ユーザーが探しているものを見つけやすくするために、プライバシーポリシーを再設計・再編成しました。 ・わかりやすさ：Google は、プライバシー ポリシーに、より明確な表現と詳細な説明を導入しました。また、説明用の動画や図を追加し、文字による説明に加えて、よりわかりやすい視覚的な情報を提供しています。 ・透明性と管理：Google は、ユーザーがプライバシー ポリシーを読んだ際に、すぐユーザーがプライバシー設定を変更できるように設定に直接アクセスできるリンクを提供することで、設定変更を容易にしました。

オプトアウト		
2-7.	利用者情報の提供を希望しない意思を示すオプトアウトの設置状況（方法、対象範囲等含む）	ユーザーは、Google アカウントを作成する際に、Google と共有する情報を選択することができます。同時に、アカウント、プライバシー、セキュリティに関するいくつかの重要な設定管理項目が提示されます。アカウント作成後も、ユーザーは、https://myaccount.google.com/ にある Google アカウントの一括管理用ダッシュボードを通じて、いつでも Google アカウント設定を確認し変更することができます。このツールは、デスクトップおよびモバイルのデバイス上のあらゆるブラウザを通じて使用できます。 Google のユーザーはアカウント ダッシュボードにアクセスして、特定の設定ボタンを ON または OFF にすることができます（オプトアウトとオプトイン）。例えば、ロケーション履歴は、ユーザーがサインインしたデバイスを持って訪れた場所に関する情報を Google アカウント上に保存します。これは、位置情報を収集し保存する特定の方法であり、位置情報は、Google マップ、フォト、検索を含む、Google の製品とサービスを使うにあたってユーザーに様々な利点をもたらします。 ユーザーは、これらをいつでも無効にでき（オプトアウト）、無効にした後も、Google マップ、フォト、検索を含む Google の製品やサービスを使い続けることができます。
2-8.	オプトアウトをした場合のサービス利用継続の可否	
2-9.	利用者情報の提供について個別に選択できるダッシュボード等の設置状況（方法、対象範囲等含む）	
データポータビリティ		

2-10.	データポータビリティに関する取組（データポータビリティを求める方法、対象範囲）	・ Google Takeout は、ユーザーにデータポータビリティに関する管理権限を提供しています。ユーザーは、Google に保存した自身のデータの最新版コピーを自身のコンピューターにダウンロードしたり、サードパーティのプロバイダーのサイトに直接ポーティングすることができます。 ・ Google は 10 年以上前からデータポータビリティについて準備し、2011 年からポータビリティ製品を提供してきました。Google はこの課題について、常に先取りして対策を講じてきました。ユーザーは複数のサービスの中から新たなサービスを試し最も気に入った製品を選択できるようになり、その結果、サービス間の競争が促進されます。
2-11.	- データポータビリティが可能である場合 ・ 提供されるデータのフォーマット ・ 提供先の要件 ・ インターオペラビリティ確保に関する考慮状況	・ ユーザーは、製品、データの種類、用途に応じて選択できるさまざまな業界基準のフォーマットで、自身のデータをエクスポートできます。例えば Google ドライブから、Google ドキュメントの文書を .docx ファイルとしてエクスポートし、Microsoft Office で簡単に使うことができます。データを複数のフォーマットでダウンロードできるようにすることで、フレキシビリティを最大化し、利用者自身のデータ活用方法の選択肢を広げています。 ・ Data Transfer Project (DTP) は、プロバイダー間における直接のデータ転送を可能にします。直接転送ができないと、利用者がデータのコピーを新たなプロバイダーへ移行したい場合、データを個人用デバイスに一旦ダウンロードした後、新しいプロバイダーへ再アップロードしなければなりません。世界中の消費者は、保存容量が限られた個人用デバイスや、高額なデータ回線使用料といったデータ移行を困難にしかねないインフラ面での制限に直面しています。ユーザーの管理権限と選択権を最大化するために、データポータビリティは、より包摂的で柔軟かつ、開かれたものでなければなりません。Google は、全てのユーザーが、異なるプロバイダー間で直接、データをシームレスかつ安全に移行できる必要があると考えています。DTP は、データポータビリティへのユーザーのアクセスを拡大するために、業界のパートナーと協力し立ち上げたイニシアチブで、どの企業も安全で拡張性のある直接デ

		ータポータビリティソリューションを構築できるようにするものです。直接的なデータポータビリティとは、ユーザーが自分のデータを個人のデバイスにダウンロードすることなく、あるサービスプロバイダーから別のサービスプロバイダーに直接転送することを指します。このプロジェクトは、2つの製品インターフェース間で、データを直接インポートおよびエクスポートする接続を可能にします。ユーザーは、DPTにより低帯域幅でデータのアップロードやダウンロードを行うことによる多額の個人支出を強いられることはありません。このことは、新興国の人々や低速、従量制の接続環境にある人にとって、特に重要です。
2-12.	個人情報保護法に基づく開示請求への対応状況（電磁的な開示の実施状況、開示請求の方法、提供フォーマット等）	Google は従前より、ユーザーが自身の情報にアクセスしたり削除するための堅牢で使いやすいツールを提供してきました。これらのツールを、さらに堅牢かつ直観的に使用できる方法を引き続き模索しています。 Google のプライバシー設定と管理の中心である Google アカウントには、使用している Google のサービス、メールや写真などの保存データの概要を確認できるダッシュボードがあります。また、Google アカウントには、Google のサービス全般を通じて検索、閲覧、視聴するなどのアクティビティから収集されたデータを簡単に確認し、削除できるツールであるマイ アクティビティも提供しています。 過去のオンライン上のアクティビティを簡単に振り返ることができるよう、トピック、日付、サービスで検索できるツールが用意しており、ユーザーは「データをダウンロード」からアカウントに保存されたデータのコピーにアクセスするか、プライバシーに関するトラブルシューティングまたは Google プライバシー ヘルプセンターからアクセス可能な「データへのアクセス権をリクエスト」のフォームを送信することができます。 また（上記のツールで対応できない場合で）、適用されるプライバシー関連法に基づいて利用者からの要求があった場合、デジタルフォーマットで情報

		を開示します。
3. 他アプリやサイトを経由した情報収集の状況		
3-1.	他アプリやサイトを経由した情報収集の状況	この質問は、他の第三者企業から情報を提供される可能性がある状況について説明を求められていると理解し、下記回答いたします。 Google は、ユーザーが同意した場合、Google のサービスへのアクセスに使用したアプリ、ブラウザ、およびデバイスに関する情報を収集します。 Google が収集する情報には、固有 ID、ブラウザの種類および設定、デバイスの種類および設定、オペレーティング システム、モバイル ネットワークに関する情報（携帯通信事業者名や電話番号など）、アプリケーションのバージョン番号などが含まれます。また、Google のサービスとユーザーのアプリ、ブラウザ、およびデバイスの間の通信についての情報も収集します。たとえば、IP アドレス、障害レポート、システム アクティビティ、リクエストの日時と参照 URL などがあります。 また、信頼できるパートナーからユーザーに関する情報の提供を受けることもあります。たとえば、マーケティング パートナーから Google のビジネスサービスのマーケットインサイトに関する情報の提供を受けたり、セキュリティ パートナーから不正使用防止のための情報の提供を受けることがあります。また、広告主から、広告やリサーチのサービスをその広告主に提供するための情報の提供を受けることがあります。 これらはすべて、プライバシーポリシーに明記しております。

3-2.	他アプリ提供者やサイト運営者に対し、どのような同意取得や通知を促しているか	例えば Google Play では、アプリとゲームがユーザーのデバイス上でアクセスしようとするデータについて、ユーザーが十分な情報を得た上で判断できるよう支援しています。その一環として、以前から、デベロッパーへ、 Google Play ストアのアプリー覧で、どのように個人情報収集し使用しているかを開示することを義務付けてきました。 2015 年に Android Marshmallow を公開した時には、ユーザーがいつでも、自身のデバイスでこまめに許可を確認、付与、拒否できるランタイム権限を導入しました。
3-3.	JavaScript の取扱状況（後から情報取得内容が変更されることについて、他アプリ提供者やサイト運営者にどのように伝えているか等）	本質問は Google がデータに関してパートナーとどのようにやり取りしているのかという質問であると理解しております。 Google のプライバシーポリシーに規定されております。
3-4.	複数の他アプリやサイトから収集している場合の、情報管理状況	Google は収集したデータを、データの内容、データの用途、ユーザーの設定内容に応じてそれぞれ異なる一定期間保持します。 ・ Google が収集するデータには、ユーザーがいつでも削除できるもの（ユーザーが作成またはアップロードしたコンテンツなど）があります。ユーザーは、アカウントに保存されているアクティビティ情報も削除できます。また、一定期間後に自動的に削除されるよう設定することもできます。 ・ その他のデータ（サーバーログ内の広告データなど）は、一定期間後に自動的に削除されるか、匿名化されます。 ・ サービスの使用頻度に関する情報など一部のデータは、ユーザーが Google アカウントを削除するまで Google が保持します。 ・ また、セキュリティ、詐欺および濫用の防止、取引記録の保持など、正当な業務上または法律上の目的のために必要に応じて他のデータよりも長期間保持するデータもあります。
4. 他社へのデータ提供、他社との連携の状況		
4-1.	他社に対する、取得した利用者	Google 以外の者との個人情報共有に関する Google のポリシーは、 Google の

	情報・位置情報に基づくデータ提供の内容、提供に関する留意点（ユーザーへの説明、他社の監督、安全管理など）	プライバシーポリシーの「ご自分の情報の共有」の項に記載されています。Google のプライバシー ポリシーは、あらゆる種類の個人情報並びに第三者にグローバルに適用されます。
4-2.	利用者情報・位置情報の取得・活用に関する、他社との連携状況、連携に関する留意点（ユーザーへの説明、他社の監督、安全管理等）	Google は、以下の場合を除いて、ユーザーの個人情報を Google 以外の企業、組織、個人と共有することはありません。 ユーザーの同意を得た場合 Google は、ユーザーの同意を得た場合に、Google 以外の者と個人情報を共有します。たとえば、ユーザーが Google Home から予約サービスでレストランを予約した場合、ユーザーの許可を得たうえでユーザーのお名前や電話番号をレストランと共有します。機密性の高い個人情報を共有する場合は、ユーザーに明示的な同意を求めます。 ドメイン管理者の場合 Google サービスを使用する組織の従業員または学生の場合、お使いの Google アカウントには、アカウントを管理するドメイン管理者および販売パートナーがアクセスできます。 ドメイン管理者および当該販売パートナーは次のことを行うことができます。 ・ユーザーのアカウントに保存された情報（メールなど）にアクセスし、その情報を保持すること。 ・ユーザーのアカウントに関する統計情報（ユーザーがインストールしたアプリの数など）を表示すること。 ・ユーザーのアカウントのパスワードを変更すること。 ・ユーザーのアカウントのアクセス権を一時停止または停止すること。 ・適用される法律、規制、法的手続き、または強制力のある政府機関の要請

		に应じるために、ユーザーのアカウント情報を受け取ること。 ・ ご自分の情報またはプライバシー設定の削除や編集を行うユーザーの権限を制限すること。 外部処理の場合 Google は、Google の関連会社およびその他の信頼できる企業または個人に対し、個人情報を Google のために処理させる目的で当該個人情報を提供します。その場合、当該関連会社、企業、または個人は、Google の指示に基づき Google のプライバシー ポリシーならびにその他の適切な機密保持およびセキュリティの方策に従って当該処理を行います。たとえば、Google ではカスタマー サポートの提供をサービス プロバイダーに委託することがあります。 Google は、個人情報にアクセスできる担当者を、その情報の処理のためにその情報を必要とする Google の社員、請負業者または業務委託先、および代理人に限定しています。内部ツールへのアクセスは厳重に管理されており、システムの悪用に対してはゼロ・トレランス・ポリシーを採用しています。従業員であるか否かを問わず、当該担当者はいずれも、厳格な契約上の守秘義務を負っており、当該義務を履行しなかった場合は懲戒処分または契約解除の対象となる場合があります。 法律上の理由の場合 Google は、個人情報へのアクセス、使用、保存、または開示が以下の理由で合理的に必要だと誠実に判断した場合、その情報を Google 以外の者と共有します。 適用される法律、規制、法的手続きまたは強制力のある政府機関の要請に应じるため。政府から受けた要請の数と種類についての情報は、Google の透明性レポートで開示しています。
--	--	---

		違反の可能性の調査など、適用される利用規約の遵守徹底を図るため。 不正行為、セキュリティや技術上の問題について検知、防止またはその他の対処を行うため。 法律上の義務に応じて、または法律上認められる範囲内で、Google、Google のユーザー、または一般の人々の権利、財産、または安全に害が及ぶことを防ぐため。
5. サードパーティによる情報取得への対応方針		
5-1.	ウェブブラウザやアプリ経由等でサードパーティが情報取得することについての方針 (Third Party Cookie や広告 ID 等の取扱い) ウェブとアプリで方針は同じか異なるか。	・第三者とのユーザーの情報共有に関する Google のポリシーは、Google のプライバシーポリシーの「ご自分の情報の共有」に規定されています。Google のプライバシーポリシーはすべてのユーザデータ及び第三者についてグローバルに適用されるものです。詳細は上記 1－3 の記載をご参照ください。 ・Google は、ユーザーのデータを匿名化、統計化し個人が特定できない形で第三者と共有することがあります。
5-2.	フィンガープリント、Unified ID 2.0 等のクッキーの代替手段での情報取得の動きについての考え方	すべての人に開かれたウェブを維持するために、広告是不可欠な要素です。しかし、変化するユーザーのプライバシー保護への期待に応えられなければ、そのエコシステムの存続は望めません。多くの人々はウェブを閲覧する際に身元や情報が安全に保たれることを求めています。このため、Chrome チームではプライバシーサンドボックスをご紹介しました。 プライバシーサンドボックスの重要な目的は、個別ユーザーに関するデータを共有したり秘密裏に追跡したりする、不透明もしくはユーザーから見えない技術から、人々を保護する技術を開発することです。（これはフィンガープリントとして広く知られています。）

		一例としては、端末の IP アドレスを悪用して、オプトアウトの知識がない利用者やオプトアウトの選択肢がない利用者を特定しようとするといった手法があげられます。Chrome は、ウェブサイトの通常の動作を妨げることなく利用者の アイデンティティ を保護するために、IP アドレスをマスクする方法の新たな仕様提案として Gnatcatcher を公開しました。他の提案仕様と同様に、ウェブコミュニティからのフィードバックに基づき今後も改良を続けてまいります。 この点に関する Google の考えに関する詳細はこちらよりご確認ください。
6. アプリ提供マーケット		
6-1.	SPI に関する取組状況	Google Play は、アプリやゲームがユーザーのデバイス上でアクセスしようとしているデータについて、ユーザーが十分な情報を得た上で、判断できるような支援に努めています。その取り組みの一環として、Google Play ストアのアプリの掲載情報に個人情報の収集と使用の方法を開示するよう、デベロッパーの皆様に義務付けています。 詳細については、「How Play works」のウェブサイトをご覧ください。
6-2.	アプリケーションプライバシーポリシーの作成や利用者情報取扱いの透明性確保の観点からのアプリ提供者に対する働きかけや情報提供	Google はセキュリティに投資しており、デベロッパーによる悪用や不正を検出する、いくつかのシステムを導入しています。例えば、デベロッパーによるユーザーの情報へのアクセスについて定めた Google API 利用規約は、デベロッパーが収集、使用、他者と共有する利用者情報について明確かつ正確に定めたプライバシー ポリシーを提供し遵守することを義務付けています。また、デベロッパーが明示的な「オプトイン」の同意なく、利用者の非公開データを他の利用者やサードパーティに開示することや、スクレイピング、データベース構築、その他利用者データの恒久的コピーを作成することも禁止しています。

		さらに、Google の API サービス利用者データポリシーは、デベロッパーがユーザーの Google アカウント データにアクセスするための許可を求めることを義務付けています。それらのアクセス許可の要求は、ユーザーにとって合理的なものでなければならず、アプリ実装に必要な情報に限定される必要があります。デベロッパーは、アプリの既存機能やサービス実装に必要な Google ユーザーのデータへのみ、ユーザーへアクセスを求めることができます。 Google Play では、アプリとゲームがデバイス内のどのようなデータにアクセスを求めるかについてユーザーが十分な情報を得た上で判断できるよう支援しています。この取り組みの一環として、以前から、デベロッパーが Google Play ストアのアプリリストで、どのようにユーザーの情報を収集し使用しているかを開示することを義務付けてきました。2015年に Android Marshmallow を発売した時には、利用者がいつでも、自身のデバイスでこまめに許可を確認、付与、拒否できるランタイム権限を導入しました。
7. PIA・アウトカムについての考え方		
7-1.	PIA の導入状況 (GDPR の DPIA の具体的な実施方法や、その他の実施事例)	プライバシーとセキュリティに対する Google の投資は、すべてのプロダクトにおいて一貫しています。Google の製品や機能は、Google 社内全体からの意見に加えて、世界中のユーザーや専門家から定期的に意見を募る Google のプライバシーとデータ保護オフィスの専門家の承諾を得るまで提供を開始することはありません。
7-2.	利用者情報の取扱いに関するアウトカムについての検討状況 (検討している場合、どのような考え方にに基づき判断しているか)	
7-3.	利用者に対する、PIA の結果やアウトカムの説明の取組状況	